

篠岡地区の学校再編に関する保護者等との意見交換会 で頂いた主な質問や意見等（要旨）

第3部：8/30（土）14時～ 於：東部市民センター講堂

■第1期再編について

○陶小学校独自の活動は継続してもらえるのか。

陶小学校に限らず、それぞれの学校におきましては、地域との協力により、いろんな活動が進められていることは承知しているが、それらの取り組みすべてをそのまま継続することは学校現場の負担を考えると難しい。

継承すべき活動やこれまで培ってこられた地域の繋がり、絆などを次につなげていけるよう、皆さんと一緒に考えていきたい。

○アンケートについて、学校区ごとの意見の傾向なども分析、検討されたか。

また保護者のアンケートについて、第1期再編の是非に関する設問がないのはなぜか。

アンケートについては、再編計画案の策定にあたり、学校区等、属性別に集計・分析等を行っている。

学校再編の実施については、目の前の子どもたちの教育環境の改善のため、避けては通れないと考えており、第1期再編の実施を前提に、その課題や配慮すべき点などについてアンケート調査を行った。

○学校再編そのものの情報発信が足りていないと感じる。

ホームページやSNS、保護者用アプリでの発信だけでは見ない人もいるため、自宅への郵送やTVや新聞での報道など、あらゆる方法で情報発信を行うべき。

市としても学校再編を進めるにあたり情報発信や周知啓発については最重要課題の1つとして認識しており、これまで市ホームページやSNS、広報こまき等、あらゆる媒体を用いて周知に努めてきた。

ご提案の内容については今後の情報発信を考える上で、大いに参考にさせていただく。

○今回のような意見交換会を、例えば地域主体での開催を企画した場合、市教育委員会に説明に来てもらうことは可能か。

今後、地域主体で意見交換会等を企画いただくことは、地域の多くの方に学校再編への関心をもっていただくという意味で大変ありがたく、必要があれば、是非伺いたいと考えている。

○学校規模が小さくなると子ども同士の関わりや競争、協力に基づく学習活動が限定されるといった説明があったかと思うが、そういった課題は今回の再編に伴って、解消されるという認識でいいか。

小規模校のメリットとして、子どもたち一人ひとりに目が行き届きやすいことや、きめ細かな指導が行いやすいと考えており、小規模校が悪いとは考えていない。一方で学校外の時間も含めて、先生との関わりよりも、子どもたち同士で関わる時間が圧倒的に長く、子どもたちが将来、社会の中を生き抜いていくためには、子供同士の関わり合いの中で得られる成功や失敗などから学ぶものが多いと考えている。

また、学校規模が大きくなることに伴い、教職員の数も増えるため、より多くの目で子どもたちを育ていけることはメリットの1つだと思っている。

○学校再編によって、使用されなくなった学校が廃墟化し、治安が悪化するという懸念もあるが、対策等は検討されているか。

再編後の学校跡地については、セキュリティ管理はもちろん、美観などの面でも、適切な保全に努めていきたいと考えている。

○大城小学校は学校区がわかる都合、再編後、児童生徒数のバランス的に少数派になってしまう可能性がある。そうした際、大城小の先生を再編後の学校に配属してもらえると子どもたちとしても安心できると思う。

教員の人事に関しては愛知県の所管になっているため、本日のご意見についてはしっかりと県にお伝えさせていただく。

○児童生徒数の減少は小牧市だけの問題ではないと思う。他市町では小規模の強みを活かすような取組をされている事例もある中、なぜ小牧市では学校再編に取り組むことになったのか。

児童生徒数の減少は全国的な課題であり、その中で教育の質の確保という点についても全国の事例等を調査してきたところで、小規模校において強みを活かしながら、ICTの活用などにより子供たちの関わりを確保、創出する取り組みがあることも承知している。

こうした取組みは山間部や離島などをはじめ、物理的な距離などにより学校再編が行えない際に実施される場合が多いと承知している。

いずれにしても、子ども同士の関わり合いが教育において重要であるとの考えから、実施されているものと思っており、今後、児童生徒数の減少傾向が続く篠岡地区においては学校再編が必要であると考えています。

○学校再編を急ぐ理由はよくわかったが、それを理解したうえで令和9年4月は早すぎると思う。それまでにきちんと準備ができるのかという不安が消えない。

現在、教職員を中心に学校再編に伴う事務レベルでの調整事項等を協議する「学校再編準備調査研究委員会」を立ち上げ、細部の検討を始めており、今後、こうした場で決まったことなども発信していくことで保護者らの不安感に寄り添っていきたいと考えている。

また、令和9年度までに学校再編に係るすべての事項を決めなければならないとは思っておらず、例えば校則など、再編後に子どもたちと一緒に考えていくことが望ましいものもあると考えている。

○子育て世代、特に出産間もないような保護者は自分から情報を取りに行くのは難しいため、より丁寧な情報発信をお願いしたい。

貴重なご意見として参考にさせていただく。

○城山三、四丁目の通学区域について、他の城山地区や大草地区を含む大城小学校区全体への配慮等も考えることができないか。

城山三、四丁目については、現在、他の城山地区が桃陵中学校に進学する中、光ヶ丘中学校に進学しているものの、通学距離などの観点から桃陵中学校への進学にも一定のメリットがあると考え、再編後の通学区域を決定するにあたり住

民等の意向を伺ったもの。

他の地区については既存の通学区域を活かした学校再編を行うという基本方針に則るのが原則ではあるが、ご意見も踏まえ、今後、審議会の中で決定をさせていただきます。

○保護者もそうだが、子どもたちへの情報発信や意見を聞く機会を増やしていく必要があるのではないか。

他の情報発信の取組と併せて、子どもへの情報発信や意見聴取についても丁寧に実施していきたいと考えている。

○子どもたちが新しい環境になじめるよう、学校再編前後で児童生徒間の交流が図られるような取組を積極的に実施されたい。

すでに一部の学校では学校間交流の取組が始まっており、今後はより計画的に進めていきたいと考えている。

また変化の苦手な児童生徒については、学校間でのその情報を共有し、必要な対応やケアについてしっかりと引き継いでいく体制を構築する。

○陶地区の子ども食堂の取組について、現在、陶小学校の家庭科室を利用して調理、会館まで配膳しているため、学校再編によりこの活動ができなくなる恐れがあると危惧している。

また、子ども食堂の実施日には下校の際、地域のボランティアが会場まで連れて行ってくださっており、スクールバスが導入されるとそうしたことも難しくなるが、市はどう考えているか。

再編後の学校跡地の利活用については、現段階ではお答えできない。

スクールバスについては、今後、バス停やダイヤ等も公開していく予定ですので、既存の地域活動等との連携についても配慮できる部分については検討していく。

しかしながら、最も優先されるべきは児童の安全であり、例えば特定の日だけにだけ通常と異なるバス停で降車させるのは、児童の混乱や安定的な運行に支障がある可能性があり、慎重な検討が必要と考えている。

○通学路パトロールボランティアのなり手が不足していると聞いたが、担い手確保について支援策等を検討されているか。

通学路のパトロールについてはあくまでボランティアになり、その確保については、特効薬はなく、丁寧な周知や募集など、地道な取り組みを続けていくしかないと考えている。

○児童クラブについて、再編後の学校で実施されとのことだが、必要なスペースが確保できるのか。仮にプレハブ等を建設するのであれば、令和9年4月に間に合うのか。

児童クラブ室については、まずは再編後の学校規模に見合う普通教室や特別支援教室の確保が優先になるが、そのうえで児童クラブ室についても可能な限り確保していきたいと考えている。

なお、プレハブの建設等は検討していない。

○令和9年4月までにすべてのことを決めておく必要はないということだが、令和9年4月までに何を決めて、4月以降、どんなことを児童生徒と決めていくことを考えているのかを提示してほしい。

第1期学校再編に向けたスケジュール感については、今後、早急にお示しさせていただく。

■スクールバスについて

○バスの運転士は男性がほとんどかと思うが、特に下校時、バス内で1対1になりすると不安になると思う。例えば教員OBの女性スタッフが同乗するなどの対応は検討されないのか。

近隣市町などの事例から見ても、現時点ではバスへの添乗員の配置については考えていない。乗車中の安全管理については、運行事業者との契約の中でしっかりと対応ができるような体制を構築していく。

○バスエリアについて道路1本挟んで、ぎりぎりバスの対象外だった。

このままでは子どもが一人で登下校することになるため、バスに乗れるようエリアを見直してほしい。

スクールバスのエリアについては、どこでエリアを定めても、乗れる人乗れない人は出てきてしまうため、まずは通学団の再編成により、安全な通学体制を確保したと考えている。

その上で、地域的な事情により、通学団の編成がかなわない場合には、バスへの乗車も含め、個別に検討していく必要があると考えている。

○私が国土交通省に問い合わせたところ、「小学生のスクールバスの利用については、中学生以上の利用とは異なる、より細やかな安全管理が必要」である旨の回答があったが、市ではどのように考えているか。

現在もバス会社などからヒアリングを行いながら、乗車ルール等の作成についても検討しており、今後、他市町村の公立小学校へのスクールバスの導入事例等も参考にしながら、作成を進めていく。